

# 噶矢会行政視察報告

参加者 古谷幸男・尾崎隆則・友田秀明

平成 30 年 1 月 15 日～17 日

1 月 15 日 視察先 ポートレースとこなめ

視察項目

ポートレースとこなめの運営状況について

1 月 16 日 視察先 三重県 松阪市

視察項目

地域ブランドを活かしたまちづくりについて

1 月 17 日 視察先 奈良県 桜井市

視察項目

まち・ひと・しごと（創生総合戦略）について

H30年1月15日 ポートレース常滑

視察項目 ポートレースとこなめの運営状況について

昭和28年に初レースを開催し当時は常滑モーターボート競走組合（常滑、西浦、鬼崎、大野の4ヶ町）として設立後、29年に5ヶ町村合併による市制施行で常滑市営となるが、前年の台風13号と34年の伊勢湾台風で競走場施設が甚大な損害を受けた。売り上げは平成9年の約795億、収益は平成2年の73億、市への繰り出しが平成6年の49億をピークにその後年々売り上げが減少して平成24年には売り上げが260億9500万円となり28年度が302億と推移している。尚昭和39年より半田市への繰り出しあわざかながら計上している、長引く低迷の打開策として、平成10年にポートピア川崎、18年にポートピア名古屋、24年にオラレセントレア、27年にミニポートピア栄（名古屋市の繁華街）と次々に開設し売り上げ増に向けた努力をしているが、なかなか効果があらわれていない、然しながらこれらの場外発売をしていなかったら悲惨なものになっていたのではないかと思う。オラレセントレアは中部国際空港内に開設した特異な施設でよく解説にこぎつけたと称賛できる、その少ない売り上げの中、市への繰り出しが28年は2億円だがそれまでは4億～6億の繰り出しをしているのは評価できる、ただ中部国際空港の開設で常滑市には年に約60億円の歳入があるので、市全体での余裕があると感じた。平成28年～平成30年度までのポートレースとこなめの第5次経営合理化計画で基本

H30年1月16日

三重県松坂市

視察項目 地域ブランドを活かしたまちづくりについて

松坂市は三重県のほぼ中央に位置し伊勢湾から西の高見山地を境に奈良県と接し平成17年松坂市、姫野町、三雲町、飯南町、飯高町の1市4町が合併し面積623.66km<sup>2</sup>、人口165,918人（H29・4・1現在）と周南市と面積、人口ともに似かよった市である。三井高利（三井グループの祖）を始め日本三代商人の大坂、近江そして伊勢商人の町として有名である。地域ブランドを活かしたまちづくりを展開している松坂市は、松坂牛（まつさかうし）をメインにして取り組んでいる。松坂牛は高級肉として認知されているが、同じ品質で安定した流通を図るために松阪牛生産者団体で組織された協議会で 1 松阪牛生産振興として、松阪牛の安定供給、特産松阪牛の振興、松阪肉牛共進会などの協賛 2 松阪牛の安全・安心への積極的な取り組みとして、松阪牛個体識別管理システムの運用、松阪牛の安全安心等の積極的な情報発信 3 松坂牛の生産調査及び研究として、生産者の意識調査、品質向上のための研究や研修と取り組んでいて、松坂牛の定義として個体差を減らし安定した品質保持のため生産区域の設定（旧22市町村と「松阪肉牛生産者の会」会員、個体識別管理システムへの登録し黒毛和牛、未経産の雌牛、飼育期間として生産区域での飼育期間が最長・最終、その他として牛肉枝肉格付けをする等の定義をもうけさらに特選松坂牛としては、兵庫県但馬地方

的な考え方として 6 つの主要施策として、①本場開催を 200 日以上とする  
②強風対策を施したうえで、旧スタンドの改修を進める③専用場外発売所  
の新設を検討する④より一層の収益重視型事業への転換を目指す（コスト  
削減を図る）⑤積極的な情報発信を行う⑥地方公営企業法全部適用に伴  
うメリットを活用するとあり、コスト削減と企業会計の導入、さらなる場  
外発売に特に力を入れる、そして SG レースの招致が売り上げに大きく関  
わってくることをみると徳山競艇は現状に甘んじることなく、64 年ぶり  
の SG レースが決まったことに浮かれることなく年 8 回ある SG レースを  
全国 24 場で均等開催すると 3 年に 1 回は開催するという気概で誘致活動  
とモーニングレースが好調だと胡坐をかかずに、場外発売所の新設に本氣  
で取り組み、周南市への繰り出しを 10 億円、20 億円をめざし更なる努  
力展開が望まれる。

生まれの生後 8 か月の雌牛で 900 日以上手塩にかけて飼育されたものを特選松阪牛としてブランド力を高めている。平成 29 年 6 月末でシステム登録農家数は 89 戸で、飼育頭数は 13,064 頭、出荷は年に約 7,600 頭でシステムに登録された牛には松坂牛証明書と松坂牛シールを発行し、消費者はシールに記された個体番号をネットに入力すれば、生産農家や血統など 36 項目に情報が確認できこうした地域ブランドを活かしたまちづくりに取り組むと同時にさらなる取り組みとして、松阪市のふるさと納税の返礼品の主力品としてふるさと納税額の 3 割ほど松坂牛を売り込んでふるさと納税額の目標を 29 年度 3 億円、30 年度 6 億円、31 年度 10 億円として、確固たる自信をもって遂行している、我が周南市も入るを量る一つのツールにふるさと納税を掲げてはいるが、松阪市のように具体的なそれも実現可能なさらけっして少額ではない高い目標をもってとりくまなければならぬと痛感した。

1月17日

奈良県桜井市

視察項目 「まち・ひと・しごと（創生総合戦略）について」

桜井市の概要は人口 57,993 人、世帯数 24,643 世帯、面積 98.92 km<sup>2</sup>

奈良盆地の南東に位置しており、国指定遺跡 11ヶ所をはじめ数多くの遺跡・古墳が散在し、纏向遺跡は初期ヤマト政権発祥の地としてまた卑弥呼の邪馬台国の候補地として有名な遺跡で訪れる人が多い、産業は木材とそうめん発祥の地として全国的にも有名な三輪そうめんがある、桜井市の総合戦略は市長公室行政経営課が担当して、人口ビジョン「桜井市がめざす人口」の中で 2000 年の 63,122 人をピークに 2010 年には約 6 万となりこのままでは 2040 年には約 4600 人まで減少する予想で 20 代・30 代の若者の転出が人口減の原因の一つになっていることから、結婚・出産・に大きく影響するこれらの世代の転出を抑えるなどして 2040 年に人口 5 万 1 千人を維持することを目指している。人口ビジョンで整理された対応方針の検討（戦略検討の方向性）で、①若い世代が住み続けられる就業の場や通勤利便性の向上による転出抑制②子供を育てやすい環境、子供を生みやすい環境の充実による少子化抑制③まちの魅力の活用・発信による着実な転入促進をかけている、我が周南市は悲観的な数字ばかり言っている市長はどうなのか桜井市のように具体的な数値目標をたてそれに向けたビジョンをつくって取り組んでいるようには見えない。尚桜井市の総合戦略は市の総合計画の政策体系に基づく施策・事務事業を組み合わせた「パ

ッケージ」として位置づけている。すでに取り組んでいることとして若い世代が住み続けられる施策の一つに大阪などへの通勤利便性を高め住みたいまち・帰ってきたいまちとして機能向上に取り組んでいる。

戦略の基本目標（将来のすがた）として4つの視点があり①若者の働く場を確保する、地場企業と農業における付加価値化やブランド化で働きやすいと感じられる魅力ある「働く場」を創出（農産品の高付加価値化・企業誘致）②市外からの来報を促し、定住を促進する、市の自然環境や歴史・文化を最大限活用しインバウンド観光を含めたプロモーション戦略の強化で交流人口の増大や転入を促進のため市の認知度をたかめる。周にやん市で認知度を高めて大丈夫なのか？③子育てせだいに選ばれるまちをつくる、切れ目がない子育て支援や地域全体で見守る環境づくりで結婚・出産・子育てをサポート、市独自の学力・学習調査の実施④桜井市ならではの生活スタイルの確立と着実実現可能な戦略を掲げて推し進めている。

宿泊施設が一軒もない桜井市だったが、今年の夏ルートインがオープンし来訪客が通過する街からお金を落とす街へむけて第一歩となり、三輪山をご神体とする大神神社の何もなかった参道の両側に仲見世のような店を整備する計画も進行している、ただ人口減や子育て対策を各地方自治体が競って取り組んでいる「まち・ひと・しごと総合戦略」は各自治体が競うものはないようと思える、結局各自治体が競えば自治体の力が同程度ならただ人の奪い合いで、力の差がある自治体なら力のある自治体が強い、本来なら国や県で取り組むことではないだろうか

# 視察報告書 平成 30 年 1 月 15 日 愛知県常滑市

## 「常滑競艇場の運営状況について」

尾崎 隆則

### 沿革

昭和 28 年 7 月 10 日 競走初開催

昭和 34 年 9 月 26 日 伊勢湾台風により、甚大な損害を受ける

昭和 45 年 1 月 31 日 旧スタンド新設 H32 リニューアルする

平成 10 年 3 月 19 日 常滑・蒲郡共催の場外発売所宮城県に

「ポートピア川崎」をオープン

平成 18 年 8 月 22 日 常滑・蒲郡共催の場外発売所

「ポートピア名古屋」をオープン

平成 21 年 6 月 23 日 外向発売所「ワインボとこなめ」オープン

平成 24 年 5 月 17 日 中部国際空港内に「オラレセントレア」

平成 27 年 1 月 24 日 名古屋市中区栄の繁華街に「ポートレー

スチケットショップミニポートピア栄」

オープン（クリスマスの日）

### 現状

平成 27 年度の売上げは 1 兆円を超え、4 億円を市に繰出しを行っている。

発売形態は、周南市と変わらず電話投票・場外発売・ポートピアなどの広域発売化。

中部国際空港の開港により、道路・鉄道が整備され、本場へのアクセスが向上となり、ホテルや商業施設の集客要件などの環境条件に適している。

### 施設改善策

貴賓室からではわからないが、冬場の強風対策として、防風ネットの設置・快適な娛樂施設として、遊園地や休憩施設・トイレなどの改修。

大地震・津波・火災等の対応として、職員や従事員等による初期消火・来場者の避難訓練を実施予定。

### 所感

事務局職員の丁寧な説明・対応は尼崎とは月とスッポンの違いであった。

本市と同様に平成28年度より、企業会計に移行し経営状況や固定資産の保有状態の把握、中長期的な経営戦略などのしっかりといた考え方。施設の改修・改善・ボートレース選手への滞在環境（ロッカーのワイド化・寮の移設）などの気配りなど計画をもって進められていることに感心した。

# 視察報告 平成30年1月16日 三重県松阪市役所

## 「地域ブランドを活かしたまちづくりについて」

尾崎隆則

松阪市は平成17年1月、松阪市・嬉野町・三雲町・飯南町・飯高町の1市4町で合併し、人口約16万9千人・面積=623ヘクタール。周南市とほぼ一緒。

伊勢神宮を中心に参宮街道や伊勢本街道は大和をはじめとする要所と、伊勢を結ぶ街道として、重要な役割を果たし大きな発展の影響を与えていた。

松阪市と言えば松阪牛が有名であるが、その地域ブランドがどのように市に影響を与えていたのか、研修した。

### 松阪牛祭り

昭和24年に第1回目を開催した松阪肉牛共進会は、平成29年で68回目を迎えていた。この共進会が今日の松阪牛の成長戦略の一環となっている。

これまで5年に一回行われていたが、平成21年より毎年行われるようになり、来場者は約35,000人・最優秀賞の牛は一頭2,500万円で朝日屋（肉屋）が落札している。

特産松阪牛とは但馬地方（兵庫県）生まれで紀州育ちの若い雌牛を役牛として導入。但馬地方から生後約8ヶ月の選び抜いた子牛を導入し、900日以上の長期に渡り肥育されたものを「特産松阪牛」と呼ばれている。月齢でいうと約38ヶ月以上の牛である。

#### ふるさと納税（ふるさと応援寄付金）

平成26年度=644件 = 4, 49万2, 455円

平成27年度=4, 914件=1億2, 956万7, 055円

平成28年度=4, 043件=1億2, 347万4, 108円

平成29年度=7, 199件=2億6, 049万600円

となっており、松阪市では平成30年度は3億円・31年度は6億円・32年度は10億円の目標を掲げて、職員一同が一体となって取組んでいる状況が伺えた。

#### 所感

今回の視察目的は、合併して周南市としての知名度が日本全国に知れ渡って無いことから、4月1日のエイブルフルに端を発した、「周ニヤン市」の取組みが元を発したものである。本来の市の名称をアレンジしてキャラクターマスコットで成功した事例はあるが、

「周ニヤン市」のPRは全国版（毎日新聞紙）の広告でも全然通用していない。11月に視察に訪れた三木市でも職員がまったく見ていない。

執行部では、インターネットの配信アクセスや新聞広告などで全国発信したから少しは効果が表れるだろうと確信したかも分からないが、周南市に視察に訪れるのは事務局の苦労で、「周ニヤン市」のPRではないことを認めるべきだと思う。

こういう無駄な施策は続けるべきではない。市民税を活用しているのは事実なので、市民に説明できる方策を構築するべきであると感じている。

視察報告 平成30年1月17日 奈良県桜井市役所

まち・ひと・しごと（創生総合戦略）について 尾崎隆則

### 桜井市の概要

桜井市は数多くの歴史的文化に恵まれ、国指定遺跡11ヶ所をはじめ、初期ヤマト政権発祥の地として、また卑弥呼が女王であった邪馬台国の候補地として全国的に有名な遺跡がある。

また、三輪山の麓はそうめんの里として、三輪そうめんの発祥の地として全国に知れ渡っている。

人口=58, 386人

面積=98, 91ヘクタール

### 総合戦略の具体的な取組み

1、若者の働く場を確保する（流出抑制とU.I.Jターンを促す）

主な取り組みとして

農産品の高付加価値化・持続できる農業の新たな担い手の

創出・企業誘致の推進

2、市外からの来訪を促し定住を促進する

主な取組み

歴史文化の発祥の地「桜井」の魅力を周知することによって、市外からの来訪を促し、交流人口の拡大や転入人口の増加につなげる

### 3、子育て世代に選ばれるまちをつくる

子育て世代の男女両方に対するサポートを行うことによって、若い世代の結婚・出産・子育ての支援体制を向上させる。

### 4、桜井ならではの生活スタイルを確立する

豊かな自然環境に恵まれた「桜井」で、ゆったりとした時間を送る生活の魅力を向上させ、移住・定住を促進する。

また、桜井市の特性を踏まえ、魅力と個性を生かし、安心・安全に暮らせるまちをつくる。

## 所感

桜井市の総合戦略の取組みは、地の利を生かしたすばらしい施策を感じた。人口や面積に対して、議会関係の報酬が周南市よりも多いことにビックリした。

三輪そうめんの発祥地であることから、ふるさと納税の人気もさすがだと思った。昼食で三輪そうめんをいただいたが大変おいしか

った。

総合戦略の考え方として、周南市はどういうところに重点を置いているのだろうかと疑問に思う。「子育てるなら周南市」と提言している市長の発言と、実際の活動・行動が伴っていないように感じている。若者定住・UIJターン施策でどのような実績があるのか、ふるさと寄付金（周ニヤン市）が、達成できるのか、大きな期待である。

端矢会視察、1月15日  
ポートレースとみなみ  
古谷幸男

## 運営状況について

昭和28年7月に初開催し昭和29年4月  
からの市政施行により市営となり。

今年で63周年を迎えて。

この内の常滑市への繰出金総額は  
1,130億円余りと大きな財政貢献度がある  
ある。(最高額は昭和55年度の56億円)  
徳山競艇と比較してもその貢献度は  
大きい。

しかし平成9年以降は売上額が年々  
減少化傾向にある。これは全体の競艇  
事業の傾向でもある。

こうした状況の中平成16年度から市の  
繰出金の目標額を設定し売上額向上  
と経営合理化計画を策定している。  
3年ごとに繰出金を設定し取り組んで  
いる。発売形態は本場の売上額は減少  
するものの専用場外 優ゆ場外 受託事業  
が伸びている。

平成28年4月から企業会計へ移行しており  
将来にわたり事業を継続し市財政は  
長期的に直面していくものといふ。

壳工が向こう策に取り組み経費削減に  
ついて施設改善についても老朽化して  
いる現状の中で将来を見据えコスト化  
を進める予定でいる。

特徴的な状況は今が市への繰入金  
の目標設定に最大限努力する姿勢が  
示されている。平成28年度2億円、  
平成29年度4億円 平成30年度予定は  
4億円にしている。

競争性事業の目的を達成するよう積極的  
に取り組む姿勢を強く感じた。

議会観察

1月16日

地域フーランドを活かしてまちづくりについて(松阪市)  
古谷章男

松阪市の全国知名度は高く発信力があるが、取り組まれているのか、そのフーランド力とまちの実態を比較論的に見てみれば少々もの足りない感じをうけていく。

なぜなのかは明確にはわからぬが、況てはあっても結果としては実を以て取り組んでその効果はふ、また細税について結果として表されていく。

ふ、また細税は平成26年度に644件4050万円全額から平成27年度4914件71倍以上となり1億2956万円と大きく伸びていて、H27、28年度と伸び幅は伸びていて、あるもののH29年度は約2倍の1994件2億6千万と伸びていて。

この状況ははでさはついで実際に地域内でもまたまな取り組みをして地域密着型フーランドとして大いに発信をしていると思つる。

実際のアートホールの高さはすばらしい  
ものがある

私が岡南市の取り組みには~~支持~~感動的  
なものがあると感じて

やはりその地域にある資源、ゆかりのある  
ものを大切に地元でしかないことを  
~~活かしてこそまたつむりのとく実感~~。

喝采会視察 1月17日

## 桜井市「まち・ひと・しごと」創生総合戦略について

古谷幸男

桜井市は初めて視察にきてまちで大都市近郊の  
都市としてこれからまちづくりについてどう取り組むを  
しているのか興味があり参考にすべき点が多くあるのでは  
ないかと思っていく。

中山向地域が60%高齢化率は30%未満  
ながら高齢化進み中全国的な状況と比較  
しても人口減少が進んでいるとの3食の認識を  
感じた。

2000年から6万3000人、2010年6万人と10年で  
3000人全の人口減少、現在は58,000人となってい。  
主には東京方面に流出となっていっている事で、  
原因はやはり働き場所とハマることである。

2025年、2040年には危機的状況を  
防ぐために働く場所の確保 ワークバランスの  
とれて生活環境の整備に取り組んでいく。  
まずは支援策の充実や生産性向上はかでいく  
といふものである。しかし雇用制度の  
不正規雇用対策の課題は解決しなければ  
ならないことである。

2040年に5万1千人を維持するため今後  
交流人口の拡大、転入促進に取り組むこと

現実論からみると非常に厳しい状況であり、全国と比較しても大きな特徴は感じられない。ところ職員の積極的な姿勢が全く、歴史的背景を取り入れ合わせて取り組んでいくとのことである。

伝統相模の飛祥の地といった「まほろばの地」として春晴らしい場所、往々やすら陽気、災害のないまちにして、また三輪素麺、製材業といふ、地場産業をかけて観光の地としても強く期待するとも言えられる。

資源は多く期待感として持ちと感じ、周南市には少く奉社が豊富なやはり周ニイレ市などといつておしゃれ的、これ合せではなく文化伝統歴史を重視してこそ永続できるまでづくりできると強く感じ、